

え〜ZARDのホントのファースト・ライブレポートである。

どこから話そうか。本番当日の数ヶ月前からにしようか。

さて話は1991年の7月である。当時、東海大学開発工学部の1年生であった僕は学生自治の仕事をしており、学園祭の準備に追われていた。開発工学部は静岡県の沼津市にあり、独立したキャンパスを有していた。また1991年開学のため、このキャンパスには1年生しか存在しないため、学園祭の予算も少なく、どのようにしたら少ない予算で盛り上がるか？毎日、会議の連続であった。大学の学園祭といえば芸能人やミュージシャンを呼んでのライブである。しかし、少ない予算では大物や有名なミュージシャンは呼べない。かと言って、無名の新人を呼んで、果たして盛り上がるのか？観客を呼べるのか？話は連日、深夜まで続き、あるひとつの結論が出された。「今年はライブをやめよう」。話はこの方向で進むはずだった……。

時間は流れて、9月。一度、学園祭の準備委員会から私用で離れていた僕はとんでもない事実を知らされた。「アーティストを呼ぶ」というのである。話が違う、と僕は抗議しかけたが、既に決定事項であり、アーティスト側にも学園祭ライブを打電し、オッケーをもらっているとのことだった。もはや、反対する段階を過ぎていたのだ。僕は、何か釈然としないものを感じながらも「で、誰を呼ぶの？」と聞いてみた。帰って来た答えが、「ZARD」であった。予算は120万円。今にして思えば、冗談のように安い金額である。

当時ZARDは既にアルバム1枚、シングルを2枚リリースしていたが、僕もそのバンド名とデビュー曲である「Good-bye My Loneliness」をかるうじて耳にしていた程度であり、大半の学生が、「ZARD？誰それ？」とか、「ZARDって何？バンドなの？」という状況であった。これらの反応を知って僕は不安を覚えたが、法学の助教授のコネであることを知っては、強い反対もできない。決定に従うことにした。

<ライブ当日>

ライブがおこなわれたのは1991年11月3日であった。心配した通り、チケットの売れ行きはあまりよくない。これも今となっては信じられないことであるが……。チケットは当初、1500円で売り出されたのだが、あまりに売れ行きが悪いため、やがて1000円となり、最終的には500円となった。

さて、ライブ当日の僕の仕事は、会場内の警備である。従って、会場にはタダで入れるのである（笑）。ステージの両サイドに、巨大なスピーカーが設置され、ステージ上にはモニタースピーカーや、ドラムセット、キーボード、マイクスタンドがローディーたちの手によりセットされてゆく。アリーナ席後方にはミキサーが設置された。開場時間は、確か、午後6時だったと記憶している。そして、僕らもスタンバイした。僕の位置はステージ正面の真下である。要は、一番オイシイ場所だ。そして、午後6時。観客が入場してくる。しかし、やはり客は少ない。150〜200席ぐらい用意していたのだが半分ぐらいの入りであった。

さて6時半、ライブスタートである。オープニングアクトを努めてくれたのは、1990年デビューの関ゆみこである。残念ながら彼女のライブでの演奏曲はあまり覚えていないが、ちびまるこちゃんのオープニングテーマであった「ゆめいっぱい」をはじめ、「電車」、「Stay Sweet」、「A Spoonful of Joy」、「Spring Time」などを披露してくれた。ちなみに関ゆみこは、11月3日が誕生日であり、奇しくも彼女のバースディライブとなった。彼女のオープニングライブ終了後、少しの休憩時間を挟んで、いよいよ、ZARDの登場となった。

ステージ上の中央にはさっきまでなかったハズの脚の長いイスが1脚置かれている。会場の客電が落とされ、メンバーが、スタンバイする。ドラムの道倉康介によるカウントが入ると、ステージはブルーの照明が入り、オープニングナンバー「こんなに愛しても」のイントロが流れ始めた。するとステージ向かって左側からヴォーカルの坂井泉水が登場。ゆっくりとした歩調でステージ中央へ歩く。僕は、その瞬間、2度の驚きを経験することになった。まず、新人なのにオーラが違う。圧倒的な存在感。それでいながら、まわりを威圧するふうでもなく、優しさと暖かさを持つ不思議な魅力。そして、♪約束、忘れたの 真夜中過ぎのあなたの部屋で〜♪と歌い出す。当時、新人＝下手くそ、という方程式を持っていた僕は、完全にノックアウトされた。上手い、いや、素晴らしい。1曲目から完全に引き込まれてしまったのだ。間奏で彼女はマイクをスタンドからはずし、イスに腰掛ける、というより寄りかかるようにして、2番を歌っていた。このときの衣装は、黒いロングブーツに、黒いショートパンツ。脚は生脚だ。そして上は白のタンクトップに、丈の短い黒いジャケットのようなものを着ていたと記憶している（が、僕は服飾関係の言葉に明るくないので、違っていたらゴメンなさい）。タンクトップ以外は、エナメル系の素材である。彼女が動くたびに、スポットライトの光が乱反射して美しかったのを覚えている。キレイな髪はストレートであった。2曲目は、先ほどとはガラリと変わってアップテンポなナンバー「Lonely Soldier Boy」である。ヴォーカルのスタイルも一変させて、力強く、激しく歌いあげていた。3曲目は発売直前だったミディアムナンバー「もう探さない」。オープニングの3曲に全く違う曲を使うことにより、ZARDの魅力を完全に伝えきっていた。

「もう探さない」が終わると、MCである。MCは、「みなさん、こんばんわ。ZARDです。今日は、来ていただいて本当にありがとうございます。実はこのメンバーでは最初のライブとなるので〜（中略）〜で、次に聞いてもらおう曲なんですけど、私たちのデビュー曲で<Good-bye My Loneliness>っていう曲なんですけど、みなさん、知ってますか？」という静かな問いかけに対して会場からは「知ってるよ！」との声。それを聞いた泉水さん、「ホント!？」とうれしそうな笑顔でした。そして曲は、その「Good-bye My Loneliness」、「女でいたい」、「不思議ね・・・」と続く。このあと、メンバー紹介をした後、セカンドアルバムの発売の告知、「みなさん、買ってくださいね」との泉水さんのお願いに、客席は、「は〜い!」。ホントに買ったのかは定かではないが・・・。（もちろん僕は買ったよ。）そして、次のナンバー「Oh Sugar Baby」、「恋女の憂鬱」、ラストナンバーの「愛は暗闇の中で」を歌い上げ、メンバー全員が舞台を去りました。そして当然のごとくわき起こるアンコールの声。しばらくして、泉水さん以外のメンバーが再び配置につきましたが、泉水さんだけがなかなか現れません。すると、このテンションを落とさないために、ドラムの道倉さんがいきなり、ドラムを叩きはじめ、キーボードの池沢さんが、「ホラホラ、そんな静かなまんまじゃ、泉水ちゃんは出てこないよ〜！」とオーディエンスをあおり始めました。それにあわせて、ギターの町田さん、ベースの星さんも、手拍子で客席をあおり、「泉水コール」がわき起こりました。そして、そんな泉水コールの中、再び泉水さんが登場。さっきと、衣装スタイルは変わってはいないけれど、色合いが逆になっていました。アンコールナンバーは、再

び、「もう探さない」とバードナンバー「It's a Boy」。歌い終わると、MC。「今日は、本当にありがとうございました。初めてのライブだったので、着替えに手間取ってしまい、さっきは、みんなを待たせてしまって本当にごめんなさい。」と俯いてしまった泉水さんに、客席からは「いいよ、いいよ、気にしてないよ～」と暖かい声援が。「(略)～これが最後の曲です。もう一度、聞いてください。＜Good-bye My Loneliness＞。」

そして、短いけれど、内容充実度120%のライブはこうして幕を下ろしました。

<ライブ終了後>

当然、片づけ。ZARD側のスタッフに混じって僕もスピーカーやらケーブルコードをしまった箱などを運び、トレーラーに積み込む作業を手伝った。

ZARD側の女性スタッフ：「チョット、君！、ころがし、持って行って！」

僕：「は～い」(ころがしを運、僕。)

「ころがし、持ってきましたけど・・・」

トレーラーのスタッフ：「ちょっと、そこに置いといて！」

「ころがし」という業界の俗語をなぜか知っている僕だった・・・。ちなみに、「ころがし」とは、モニタースピーカーのこと。でも、その片づけの最中に会場の中央にいた泉水さん。こういうと失礼かもしれないけど、なんか、かわいかったなあ。ステージ上とは全然雰囲気違った。黒いパンツスタイルで、上に黒いコートはおって、黒くて丸いサングラスをちょっとだけずらして鼻にひっかけるようにしてて。そんで白い紙コップで、たぶんコーヒーを飲んでた。黒一色の中の白い紙コップがやけに映えてたなあ～。おもわず、「お疲れさまでした～」って声、かけちゃった。そしたら泉水さん、「あ、お疲れさまでした」だって。

このライブが僕に与えてくれたのは、ZARDとの出逢いはもちろんのこと、音楽を含めた芸術の鑑賞の仕方。まず、他人から得た情報で固定観念を持つな、ということ。そして、まず自分の五感を使って実際に確かめろ、というこの2点。これは、今でも僕の音楽を聴くときの基本姿勢です。気になる音楽やアーティストがあるなら、他人が書いた雑誌記事を読むのではなく、まず自分で聴いてみる。そして、好き、嫌いを評価する。ジャンルや有名無名、国境なんて関係ない。見て、聴いて、自分が何を感じるのか、あるいは感じたのか。これが一番、大切であること。そしてそれは、人間関係にも当てはまるんじゃないか、なんてことを最近では思っています。そんなことをこのライブは僕に教えてくれました。

<ライブの翌日>

沼津のとある町中を自転車に乗って、CDショップをハシゴする王仁丸の姿が確認されている・・・。(笑)

以上、王仁丸のライブレポートでした。

注) なんせ10年ほど前の記憶を無理矢理引っ張り出しています。泉水さんのMCに関しても、一字一句、ここに書いてあるとおりではありませんが、ニュアンスは間違っていないとおもいますので、どうかご勘弁を。